

表 シカゴ連銀経済報告(2024年1月17日公表)

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は緩やかに(moderately)増加 賃金は緩やかに(moderately)上昇	6カ月前と比較して賃金圧力はかなり緩和している。新年度から新しい保険料率が適用されたため、福利厚生費が増加した。
物価	緩やかに(moderately)上昇	関係者は今後1年間も同様の上昇率を予想。非労働投入コストは引き続き上昇し、原材料、エネルギー、輸送コストの上昇が報告された。重機械製造業のある担当者は、顧客からの値上げに対する反発が強まっていると指摘した。消費者物価も全体的に緩やかに上昇したが、複数の小売業関係者は物価上昇はより控えめだったと指摘した。
個人消費	わずかに(slightly)増加	衣料品と食料品の売上は比較的好調であったが、耐久消費財の売上は低調であった。レジャーと接客業への支出は控えめに増加し、関係者はレストランでの売上増加を指摘した。自動車販売はわずかに増加した。ディーラーによると、堅調な需要により価格は高止まりしているが、多くの消費者はより小型で手頃な価格のモデルへ切り替えているという。
企業支出	横ばい(flat overall)	自動車ディーラーの在庫は、長期にわたり希望在庫を下回っていたが、報告期間中にはほぼ希望通りの水準となった。製造業では、多くの企業が投入資材の不足はもはや生じていないと回答し、在庫がやや多いと指摘する企業もあった。
建設と不動産	ほぼ変化はなし(little changed)	住宅建設は横ばいであった。関係者によると、人件費や資材費の高騰、金利の上昇、賃料の伸びの鈍化などが、新築集合住宅の建設ペースを鈍化させている。住宅用不動産の売買はやや減少し、複合住宅の賃貸が減少した。住宅ローン金利の高騰が引き続き住宅販売に水を差したが、ある担当者は、最近の金利低下で新規の動きが出てきたと指摘した。
製造業	控えめに(modestly)減少	金属加工品の受注は、住宅建設向け需要の減少に牽引され、控えめに減少した。機械売上はわずかに減少した。
金融	控えめに(modestly)緩和した	債券および株式市場の資産価値は緩やかに上昇し、ボラティリティ(値動きの大きさの度合い)は緩やかに低下した。企業融資の需要は小幅に減少し、融資の質は低下した。企業融資の金利は堅調で、基準はわずかに引き締まった。企業融資の需要は横ばいとなり、ある銀行関係者は、自動車業界の顧客は全米自動車労働組合(UAW)のストライキをうまく乗り切ったと指摘した。消費者融資の金利は全体的にはほぼ横ばいで、基準はわずかに引き締まった。
農業	2023年の地区純農業所得は、平均を上回った (above average)	とうもろこしと大豆の価格は報告期間中に下落したが、小麦の価格はわずかに上昇した。農作物生産のための投入資材のコスト変動はまちまちであった。乳製品、豚、牛の価格は下落した。卵の価格はわずかに上昇し、鳥インフルエンザの感染件数の増加により、昨冬の大流行の再来が懸念された。同地域の農家は、2024年にどのような事態が起ころうとも乗り切れるだけの強い財務状況にある、と関係者は感じている。
地域社会の状況	経済活動は控えな増加(modest increase)	中小企業支援機関の担当者によると、高金利と保険料などの費用の上昇が重なり、顧客の事業拡大を妨げているという。インフレ率の鈍化は歓迎すべきことだが、社会福祉団体は、低所得者層が依然として住宅費の上昇、冬季の衣料品や暖房などの追加出費、新型コロナのパンデミック中の政府支援の終了といった課題に直面していると指摘した。

(出所)シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成